

## 1 まちづくりコーディネーター活動報告について

## (1) まちコ派遣

《令和3年度実績 7件》 ※令和2年度実績 7件

派遣依頼元	派遣内容	人数	出勤回数
自治会	住民会議のファシリテーション	2	2
市	コーディネーター部会に係るヒアリング（スポーツ推進委員）	1	1
	コーディネーター部会に係るヒアリング（刈谷西部自治会）	2	1
	刈谷市職員研修	5	1
その他団体	実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイルカーテンーツ木）	2	1
	全体会のテーブルファシリテーション（刈谷駅周辺連絡協議会）	2	1
	地区紹介パネル作成に係る取材	5	4
合計		19	11

## (2) まちコゼミ（まちコ世話人が実施）

	7月からの実施回数	累計参加人数
守随ゼミ（ファシリテーション）	2回	17人
大野ゼミ（オンライン支援）	5回	22人
塚本ゼミ（広報）	2回	3人

## (3) まちコ交流会

11月27日（土）に実施し、6人のまちコと世話人3人が参加した。

《内容》

- ①まちコゼミの活動紹介
- ②まちコ活動の収穫祭（活動の振り返りとフィードバック）
- ③まちコロゴの決定

## (4) つなぎの学び舎・実践編

つなぎの学び舎・実践編の最終回を10月30日（土）に開催し、「私が考える話し合いの場を発表しよう」という題目で各々が考えるこれから作っていききたい企画とそのための話し合いの場づくりについて、次ページ一覧のとおり発表したのち、受講生同士でアドバイスや感想を伝え合った。結果、受講生9人全員が修了した。

つなぎの学び舎・実践編発表内容

	タイトル	内容
1	サイクルロゲイニング KARIYA	スポーツイベントを通じた商店街活性化の方法について
2	住み心地の良いかりがねになろう	災害時・緊急時にかりがね地区において地域で円滑に助け合う方法について
3	まちコ活動機会確保及び創出 ～独り立ち化と継続的成長に向けて～	まちづくりコーディネーター活動の活性化について
4	自分で決める自分らしい生き方	自分とは違う価値観や立場の人たちのことを知る機会の提供について
5	自分らしく「はたらく」を見つける場	はたらくにあたり、自分のライフプランと照らし合わせて考えることについて
6	やながせを第二の家に	岐阜県にある柳瀬商店街の活性化について
7	市民向け講座『いまさら聞けない？SDGs！～水のサイクルを体験しよう～』	水のサイクルを題材にした講座を実施することで、SDGsを知ってもらう方法について
8	地元農産物の6次産業化で、地域の活性化につなげよう！プロジェクト	刈谷の農産物をつかった第6次産業の創出方法について
9	傾聴サロン 『刈谷のうさぎ』	傾聴サロン「刈谷のうさぎ」の今後の展開方法について

(5) つなぎの学び舎・基礎編

つなぎの学び舎・基礎編を10月9日（土）から開講し、現在第5回まで開講している。9人が受講中である。

## 令和 3 年度第 1 回まちづくりコーディネーター交流会

- |      |                                  |                   |
|------|----------------------------------|-------------------|
| ●日 時 | 2021 年 11 月 27 日 (土) 10:00~12:00 | ●プログラム●           |
| ●会 場 | 刈谷市民ボランティア活動センター                 | 1 まちコゼミの活動紹介      |
| ●受講者 | 6 名 (22 名中) 世話人 3 名              | 2 まちコ活動の収穫祭       |
| ●進行役 | 遠山涼子、西森真紀 (ボランタリーネイバース)          | ～活動の振り返り&フィードバック～ |
|      |                                  | 3 ロゴのお披露目 ～最終検討～  |

### ●ねらい

- ①まちコとしての活動情報や経験を共有するとともに、地域のニーズに応えるコーディネート力を育む
- ②まちコ同士の活動報告からそれぞれの活動を理解し、つながりあうきっかけとする
- ③まちコのロゴお披露目にむけて、検討事項確認をする

### ■開会・趣旨説明 (小原/市民協働課)

〇久しぶりに、対面でまちコ交流会を行うことができます。今年 6 月から、定例会という形式を、3 つのテーマを設けたゼミ活動の形式に移しました。後ほど、各々のゼミからご報告いただきます。コロナ禍でまちコの派遣活動が中止となる中でも、皆さんそれぞれ工夫し活動してきたと思います。その近況も知り合う機会として、久しぶりの交流を楽しんでいただきたいと思います。



## 1 まちコゼミの活動報告

進行：遠山

〇今日の交流会は、3 つのパートがあります。1 つ目は、今年始まったゼミ活動について、3 つのゼミに参加された方と、世話人の 3 人からお話をいただきます。2 つ目は、刈谷市からの派遣依頼の他にも、皆さんは様々なまちづくり活動を行われてきたと思います。コロナ禍で大変な中でも、こんなこともできましたといった報告をいただきたいと思います。3 つ目は、まちコのロゴの (案) をお披露目し、検討事項があればいただいて、デザインを決めたいと思います。

### A：守随ゼミ (ファシリテート)



桑畑：5 期生です。10 月 27 日に刈谷駅周辺連絡協議会 10 月定例会でテーブルファシリテーターの呼びかけがあり、初めて手を挙げたが、何せ初めてなので、藁をもつかむつもりで出席した。1 回しか出席していないので俯瞰して理解していないが、印象に残った点は、守随さんがシンプルな問いを投げかけてくださること。答えるのにあれこれ想いをめぐらすことになるため、考えるきっかけをいただいたと感じた。また、他の人の考えも聞くことができ参考になった。こういうゼミだから長続きするのかなと感じた。守随さんの指導は、当たりが柔らかいが、幹がびしっとしている。厳しさもありながらも、とてもわかりやすく説明して下さる。ぜひこれからもご指導いただきたい。

### B：大野ゼミ (オンライン)

松浦：3 期生です。大野ゼミは、「オンラインでまちコの役割ができるように」が今年のテーマ。6 月に、「オンラインを覚えたら何がしたい？」という問いかけで始まった。自分は PC がよくわからない状況であるが、帽子をかぶったり話したりしながら、スピーカービューを使うと誰がしゃべっているのかわかる等、機械はニーズがあって作られるのだなと感じた。各々の機能は、どういう使い方があるのか、講座や話し合いの場面でどう使い分けするか学んでいる。それを経て、私はミライク刈谷で共同ホストという運営側の役割にチャレンジし、参加者の承認、相手の指名など小グループの話し合いで役割が持てるようになった。次は、資料を共有することができるようになりたい。



大野：パソコンやオンライン操作は敷居が高いように感じるが、越えてしまえばどうってことはないよということを知ってもらいたい。オンラインは道具。オンラインで何ができるかというより、「その人がオンラインで何がやりたいか」という目的意識をもってもらうことが大事。大野ゼミは、基本、偶数月の第3木曜日 19時～20時半、Zoomで進めていく。

今年はZoomが使えるようになること、次は、googleの機能の内、5つ位の機能を使って会議のホストができるようになることを目指す。ゼミに来られない人は、特別講義もしますよ。



### C：塚本ゼミ（広報）

塚本：ゼミでは、元々「まちコの皆さんがこんな活躍をしている」というPRをしたいと考えていたが、コロナでまちコの派遣活動自体が少なくなった。それで、まちコが個々人で活動している内容を報告し合うこと、まちコの間でも各々がどんなことをしていて、何が強みなのかを知り合っ、コロナが明けた時には、つながって何か新しい活動が生まれるとよいなという願いをこめて、活動シートを書いてもらおうとフォームを作った。大野さんが作ってくれた電子掲示板「まちコルーム」を使って、発信していきたい。そうした情報を、まちコが周りの人に伝えることで、まちコに興味がある人を増やしていけるといいなと思っている。



#### ● 守随さんコメント

桑畑さんは初挑戦だったが、ファシリテートは、実践を通して学んでいくもので、失敗することもOK。失敗から学ぶこともあり、逆に、このままでいいと思ってしまうとよくないこともある。そして、ファシリテートは仕切る人ではなく、「そこにいる人に寄り添って、その人が自分たちでまちづくりをやらなければいけないんだ」という状況を作ることが大事。桑畑さんとは近々、高須の住民会議でも一緒にする。実践しながら学んでいきましょう。

## 2 まちコ活動収穫祭

進行：西森

〇市からの派遣依頼は少なかったが、皆さんそれぞれの立場で活動をされてきたことがあったと思います。それを発表し合い、その発表に対してメッセージをプレゼントし合いました。メッセージは、「すてきだと思った点」「こんなお手伝いができますよ」「こんな人とつながるといいですね」といったような内容です。活動があまりできなかった方は、自己紹介的な内容でも結構です。また、広報ゼミで作成した「活動シート」を書いてきてくださった方はそれを使ってください。



### 〇シートに書く内容

お名前、①どんな活動をしたか（or どんなことが得意か） ②活動の感想（or 苦手なこと）、③は空白=後で使用



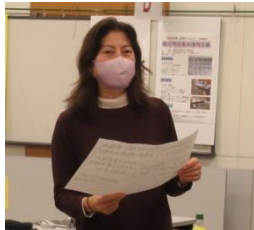
### ■桑畑忠則（5期）

- ①初めてファシリした。国際交流活動でも Zoom を活用するようになった。あれこれ妄想することは得意で、考え続けることは苦手。
- ②まちコとは「気づきの人」というイメージが沸きつつある。自分が気づくだけなのか、皆さんに気づき与えられるようになっているのかを考えている。



### ■松浦章子（3期）

- ①お茶や着付けの体験機会づくり、パステルの絵を使ったコーチングの資格を取得し、パステルアートのグループと子ども向け体験、子ども向けの元気が出るカードづくりなどを空いた時間に取り組んでいる。
- ②ぎりぎりまで準備ができない性格が分かった。子どもは、色々な反応をするので、声かけの仕方や受け止める力を勉強したい。継続するためのプラン作りが必要である。



### ■鈴木小枝（3期）

- ①30年程前から障がい児者に関わるボランティアをしている。毎年開催したバザーがコロナでできず、来年からの見通しが立たない。12/15 財津和夫コンサートを開催。皆さんに障がい児者のことを知ってもらいたい。
- ②パソコンが苦手。Zoom・SNS・オンラインなど、違いを知ることから。守随先生に会いたい一心で参加した。



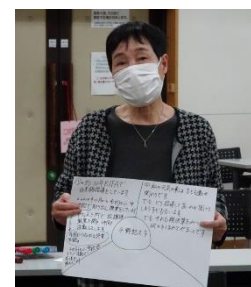
### ■塚本裕章（世話人）

- ①愛教大付属高校の前で新聞屋をやっている。店舗で「学生食堂」として、愛教大学生と地域の大人たちと座談会を開催した。学生はコロナ禍で社会とのつながりがなくなってきているが、視野を広げたいと考えている。刈谷市民ボランティア活動センター長米田さんからはボランティアについて話をしてもらい、学生は嬉しそうにしていた。2月に再開する。つなげる、マッチングが得意。バランサーを自認しており、色々な人が集まった時に間をとって、どこを目指すか一緒に探りながら、伴走すること。
- ②夜が苦手。子どもはゲームに夢中だが、勉強してもらうため自分がプランを作って家庭教師している。昼間の活動であれば、声かけをいただいたら、人と人を繋いだりするお手伝いができる。



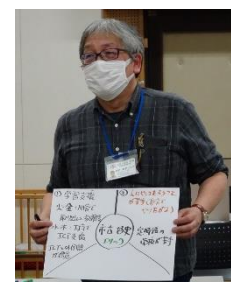
### ■平野紀久子（1期）

- ①約30年 KIFA で日本語指導をしている。2010年11月からは市内の小中学校で外国につながる児童・生徒の取り出し授業を開始。家庭と学校の往復でなく、居場所をつくり、まちで認められる存在だと肌で感じてもらうため、放課後教室を開始。小垣江、一ツ木など5か所で展開。その他、小学校で茶道ボランティア。茶道を17歳からずっと続けているが、お茶会はコロナ禍で実施できていない。元気の源はテニス。
- ②私の元気の素は子どもたちとのかかわり。でもどう指導してよいのか困ってしまう子どももいる。その解決策が見つかった。「何でもほめること」それを実践していく。



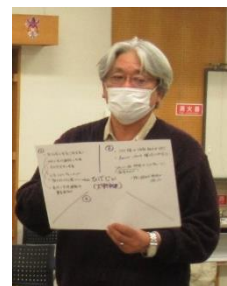
### ■市古好史（5期）

- ①学習支援：火・金は刈谷で取り出しと放課後教室。水・木は大府で ICT 支援。ICT と外国語が得意。子どもや親にむけた異文化理解・体験を実施。
- ②自分でやってしまいがち。子どもたちにやらせるようにしないといけないので、我慢の世界。苦手なのは、定時後の暗い学校。あるかないかわからないことまで考えて対応をとるが、それに力を注ぎすぎて前に進めなくなることもある。

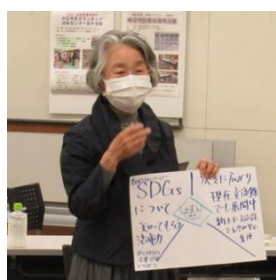


## ■大野裕史（世話人）

- ①自治会の会長（地区長）：お宝さがしウォーキング。一昨年には、まちコやふるさとガイドボランティアに協力してもらい、今年は公民館と実行委員会、社協も交えて開催した。
  - ・今年自治連合会の会長：「魅力あふれる公園づくり」公園をどうしていきたいか、市民に声を聞く機会へまちコに勧めて参加につなげた。
  - ・自主防災会の会長：亀城小学校避難所運営勉強会。中部・熊・西部 3 地区の市議員、校長教頭が参画。
- ②Zoom はいろいろな使い方ができる。（碧南で）踊りをやっている団体が施設訪問の代わりにオンライン慰問を実施した。コロナ禍で活動へのやる気が低下しているような気がする。最近はゆっくりする時間がない。温泉にいたり、孫と遊んだりしたい。



## ■守随純子（世話人）



- ①「とよた SDG s パートナー」にガールスカウトとして参画。SDG s 国際会議にオンラインで登壇するなど、SDG s について知ってもらおう活動に取り組んでいる。
- ②SDG s の木をつくる。「こんなことをしたい」を子どもも大人にも書いてもらい、SDG s の何に当たるかを記す。新たに交流館でも参加型で実施される。いろんな人に見てもらい、SDG s の考えが徐々に広がってきている。

## ■松尾友美（旧姓：神谷）

- ①来年 2 月に出産。オンラインもあるけど、直接、お顔がみたいと思っ
- ②育児の勉強もしたいけど、教室が中止となる影響もあった。いろんなインでも開催されたり、交流会でも Zoom もあると知りいろいろな手することも大事だと分かった。機会を見つけて、今後も参加したい。



て今日は来た。活動がオンライン段を使ってや



○この後、発表したシートを貼りだし、各々へのメッセージを付箋で貼りながら見て回りました。「市北部でボランティアに関心のある人を紹介してください」といったお願いごとでも交わされました。



○皆さんからのメッセージや言葉をうけて、「これができるかも」「こんな展開ありそうだ」「●●な支援がほしいな」といった今後の展開について各自のシートにメモとして記録を残していただきました。

## ●塚本さんコメント

ご自身の活動はパワフルで、今後も続けていただきたいと同時に、広がったらいいなと思う部分がある。コロナ禍の影響で、子ども会や今まであった活動がなくなる傾向にあり、同じように再開できなくても、やれることの知恵を集めて、皆さんがつながって、歩みを止めずにがんばっていく力になればよい。まちコルームも使ってそうした情報や活動経験を共有していきましょう。

### ● 守随さんコメント

メキシコとオンラインでつながる。海外派遣は一部の人だけの参加であったが、オンラインにより一斉参加できる。機材は企業に協力いただいている。異業種とつながること、コロナ禍だから新たに生まれるものがある。アンテナを張っていただきたい。



## 3 ロゴ（案）のお披露目と最終検討

進行：西村、小原

○皆さんと検討してきた、まちコのロゴ案が固まってきた。お披露目して、最終的に検討する項目を確認し、あとは原案作成者、デザイナーに相談して完成させたい。



### ● 挙がった検討項目

- ・線を太くする（市の地形枠線）
- ・「まちづくり KARIYA」の文字を「まちコ」とする。
- ・「刈谷市まちづくり コーディネーター」 左右に縦書きで楕円の弧を描くように配置する
- ・背景に色をつけるならば、正方形に近くした方がよい。
- ・色は、紫とかインディゴブルーとか、濃い色にする。色々な色を用意する。
- ・♡がかけているのは、意味があるのかを確認する。

→以上を、原案を作成してくれた水鳥さん、デザインを受け持ってくださいの方にお伝えして完成し、完成ロゴは皆さんにご報告します。



### ● その他、出た意見

- ・皆さんが自由に使えるようにした方がよいが、使用申請の手続きは整備する。まちコルームにその旨を記載する。
- ・フラッグを作成し、活動する場所に持っていけるとよい。

### ■ 閉会（遠山）

○今日は、ありがとうございました。コロナで大変だったことが多いと思いますが、その中で色々取り組まれた活動のご報告がきけ、温かいメッセージも交換することができました。また、まちコルームを活用して、情報で色々つながりながら活動していきましょう。

## コーディネーターのネットワーク化に関するヒアリング

## 1 スポーツ推進委員 令和3年11月25日実施 担当まちコ：桑畑

## (1) スポーツ推進委員の概要（山口博子さん [まちコ]、近藤義夫さん）

- ア 刈谷市のスポーツマスタープランで定める「一市民スポーツ」を目指し、健康的に生きるために市民がスポーツにつながるきっかけづくりに取り組む。
- イ 公民館から推薦された2年任期の非常勤公務員であり、総勢50人ほどが在籍している。公民館推薦が行われるようになったため組織体制が整えられた。
- ウ 活動は大きく分けて2種類あり、スポーツ推進委員の主催イベント（例：GOGOウォーキング、ノルディックウォーク等）と、地区などから派遣依頼を受けて運営するイベントがある。
- エ ニュースポーツが得意。レクリエーションのような誰でも取り組みやすいスポーツを広める役割である。プロを目指すなど、本格的にスポーツする人たちへの取り組みではない。
- オ 地区や学校、子ども会の行事への派遣依頼や、定例のイベントなど、毎年数十件を実施している。活動は基本的毎週行うことになるが、依頼のあった地区に所属する委員がその依頼を担当しており、分担できている。
- カ スポーツ推進委員は全国組織である。地域単位で組織され、組織ごとに取り組みの情報交換や研修を行うなどのつながる機会がある。

## (2) 地域や他機関との関係

- ア 公民館推薦によって体制が整えられたため、地域との関わりが深い。地域が主催するイベントの一部の運営することが多い。地域の保健推進員とコラボして打ち合わせをしてコースを決めたり、ソフトボール大会に付随するイベントの運営を任されたりしたこともある。ウォーキングのコースづくりを担当したこともある。
- イ 地域で例年行うイベントはスポーツ推進委員に依頼することが引き継がれていたり、スポーツ推進委員を務めた方が地区委員や公民館委員に就いたりするなど、地域との双方向の関わりがある。
- ウ 上記の結果、スポーツ推進委員へ直接依頼も受けることがある。障がい者デイサービスセンターや刈谷市の長寿課からは体力測定の依頼があったり、社協からはボッチャの説明をしたいなど声がかかったりする。

## (3) 活動をする中での所感

- ア 2年の任期を務めるのは大変と感じていたが、会社では味わえない人との関わりがある。ピラミッド型ではなく、若い人に年配の人が教えてもらうことや、いろいろな立場の人とのつながりから情報も入る。会社でのストレスを忘れているときがあり、そうした積み重ねで今がある。
- イ 退職して時間に余裕がある方も現役の方もいろいろな年代がいるのはよい。それぞれ動きやすい時間帯を担当するなど、誰もが無理なく参加できるようにしている。無理しないことを大事にして、楽しさを味わいながら実施できる活動を作ることが必要。自分自身が楽しくなければ来る人も楽しくない。また、自分の活動を認めてもらうこと、出番があるから続けられる。

## (4) 今後の課題について

参加者数や新しい参加者層を増やすことが課題である。地区の人にイベントを知らなかったと言われることもあり、ホームページや回覧板だけでは周知につながらないと感じている。



スポーツに興味がある人は情報を集めるが、興味がない人の目に届いていない。そういった興味がない人たちの参加があると、一市民スポーツの実現へ向けた手ごたえを感じる。

## 2 刈谷西部自治会 令和3年12月6日実施 担当まちコ：桑畑、水鳥

### (1) 刈谷西部自治会の概要（自治会長は大野委員）

- ア 約960世帯が所属しており、班は6組ある。内、約270世帯はアイシン精機独身寮の住民であり、その部分の班長は自治会長が兼任。
- イ 公民館の役員は、館長、副館長、会計。文化部、広報部、体育部、老人会、婦人部、少年部（子ども会）が活動する。
- ウ 隔月で全体の役員会を行う他、役員会のメンバーは福祉委員を兼任し福祉委員会も持つ。

### (2) お宝さがしウォーキングについて

- ア 刈谷西部自治会が実施する文化祭のサブイベントという位置づけの、刈谷西部地区の歴史的建造物などを写真に撮って親子で回るウォークラリー形式のイベントである。
- イ ねらいは、親子で地域を一緒に歩いて、地域に親しんだり、危険個所の認識や災害時の避難経路などに対する意識を持ったりすること。
- ウ 令和元年度のお宝さがし（初回）は、地区と公民館がバラバラに活動している状態で、班長や地区委員だけでやろうと思った。もう少し協力が必要だと思い、まちコとふるさとガイドボランティアに手伝ってもらった。ふるさとガイドボランティアはポイント選びと説明文をつくる役割、まちコには、チェックポイントで行われるミニゲームの企画に関わってもらった。
- エ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で文化祭自体の開催ができなかったが、「おうちで文化祭」と称して地区の住民が作成したパッチワークなどの作品を刈谷西部市民館で展示する代わりに写真集を作成し、刈谷西部地区に全戸配布を行った。その過程で実行委員会を作るベースができたので、令和3年度はお宝さがしウォーキングを実施するために10人の実行委員会を作って運営した。社協や万燈祭世話人にも協力いただいた。実行委員会をつくるよいところは、業務分担ができることだと感じた。

### (3) 防災のまちづくり活動について

刈谷西部自治会は、防災も色々な団体の協力を得て行っている。亀城小学校が指定避難所になっており、刈谷西部地区の他、中部地区、熊地区の一部にとっても避難所になる。市作成の避難所運営マニュアルは、地区情報を入れてカスタマイズする必要があるので、1年半かけて学校と打合せし、色々な人の協力を得て「亀城小学校運営マニュアル」を作成した。要支援者についても、民生委員と組長が相談して心配な方の情報を共有した。

### (4) 地域のまちづくり活動について

- ア 地域にはまちづくりをやっている人は沢山いる。しかし、その連携が作れていないと感じる。つながりづくりをすると、とにかく「組織」をつくることを想定するが、協議会の会長さんがいても動かない。まちの端っこで動く人をたくさん作っていかないといけない。その人たちがつながるとよりよいまちづくりにつながるのではないかと。
- イ つながりづくりには、組織体よりはイベントがよい。例えば、市内のまちづくり大会で各地区のよいところを自慢しあうと、真似したり、いいところ取りをしようとしたりする人は出てくるだろう。標準事例を紙にまとめて見せても広がらない。

## コーディネーターのネットワーク化について

	ヒアリングからわかった要望	期待される効果
	提案内容	
1	スポーツ推進委員が主催するイベントへの参加者数や新しい参加者層を増やしたい。 (スポーツ推進委員)	新たな参加者層になりえる人たちが関わる団体とのつながりを持ってもらえれば、イベントの告知などが届けたい人に届きやすくなり、結果参加者数や参加者層が増える。 例：こども会とつながることでその親（30代～50代）にも発信したい情報が届くようになる。
	わがまちのつむぎ場という、団体間交流を目的としたイベントを刈谷市民ボランティア活動センターで実施しているので、そこに参加してもらう。	
2	いろいろな人を巻き込んで一緒に地区事業を行いたい。 (刈谷西部地区)	お互いに良い取り組みについて情報交換をすることで、他の地区は何をしているかを知ることができ、自分の地区でも実施できる内容があれば持ち帰ることができる。さらに、他の地区と協力して事業を実施することも提案しやすくなるため、より広範囲での効果を期待することができる。
	自治連合会が実施する勉強会にて、ポスターセッションを用いた魅力ある活動の報告の機会を検討する。	
3	まちコの活動の場を地区へ広げてほしい。 (刈谷西部地区)	「まちコの活動レポート」を活用し、まちコ同士で活動内容の見える化をすることで、まちづくり活動現場の要望に対して複数のまちコが協力して対応しやすくなる。また活動レポートの項目を参考にすることで、まちづくりをしている人同士の活動が見える化することができる。
	第一段階として、まちづくりコーディネーター同士でお互いの活動について認識しあうために、「まちコの活動レポート」を共有する。	